

第1回 会議結果概要

開催概要	
日時	平成22年6月27日(日) 13時30分～15時30分
場所	一宮町保健センター会議室
参加者数	47名(委員22名(代理出席を含む)、傍聴者21名、報道関係者4名)
結果要旨	
<p>会議の設立趣旨について</p> <p>資料1「一宮の魅力ある海岸づくり会議 規約」を基に事務局から説明した。</p> <p>議題</p> <p>会長及び副会長の選任について</p> <p>以下の通り決定した。</p> <p>会長：日本大学理工学部海洋建築工学科 近藤健雄教授</p> <p>副会長：日本大学理工学部海洋建築工学科 宇多高明客員教授</p> <p>会議の進め方について</p> <p>資料2「会議傍聴要領(案)」を基に事務局から説明し、質疑応答が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「会議傍聴要領(案)」が了承された。 ・ 会議結果をまとめるために、事務局が、写真撮影、録音等を行うことが了承された。 ・ 会議結果は、発言内容を含めてHPで公開することが了承された。 <p>一宮海岸の現状等について</p> <p>資料3「南九十九里浜の海岸侵食」を基に宇多委員から、資料4「県内の海岸に関する住民会議の実績」を基に清野委員から、資料5「一宮海岸侵食対策事業について」を基に事務局から説明し、意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 離岸堤やヘッドランドを計画するときには、潮の流れを見ているのか。潮の流れが一番関係していると考えている。 ・ ずっと海を見ているが、最近急激によくなっていると感じる。ヘッドランドによって海がようやく良い方向に向いてきたという認識をもっている。今は、2,3号間にハマグリとナガラミがいっぱいいる。 ・ 九十九里浜の侵食については、10年間ほど、いままで沿岸の方々に地域社会として砂浜をどうされたいのか具体的なご意見をいただきたいと申し上げてきたが、このような運動は出てこなかった。 ・ ヘッドランドの工事や砂浜が無くなった事などについて、一宮町がどのようにしたら良い町になるかを考える事が出来る会にしたい。 ・ 昔から海に入っている。堤防が直接的な原因かはわからないが、昔、広がった砂浜は狭くなりつつある。 	

- ・ 今は一宮の海に憧れて年間何万人もの方々が一宮に来ている。
- ・ 6号堤の消波ブロックが入った時は、サーファーの方から県の方に、説明を求める署名を行なった。
- ・ HL1-2号堤の間に離岸堤があるが、砂がついた。あの場所はナガラミの漁場である。ナガラミの産卵地で、どんどん増えている。隣の所は無くなっている。潮の流れが変わって、瀬が無くなったのが関係しているのではないか。
- ・ 養浜を実施してもらい、浜を増やしてもらうのが重要である。
- ・ ヘッドランドによって砂はついた。最近ハマグリが採れたという事は良く聞く。町が良くなるには、海で泳ぐことができなければダメだ。もう少しヘッドランドを延ばして、離岸堤を設置して、安全な海水浴ができる海岸にしてほしい。一宮は地の利が良いので、良い観光になるはずである。
- ・ 太東漁港防波堤が延びるほど侵食が進んできている。
- ・ 漁業用のロープで砂付けをしている人がいる。そこには砂がついている。
- ・ ロープによる対策には、反対する。一宮海岸で漁業をやるので、もし、ロープが沖に流れたら大変な事になる。
- ・ 今後は、どう事業を進めていくのか、どのような海岸にすべきか、地元住民の方で区分けなどを考えていければと考えている。ヘッドランドの事例でいうと、例えば茨城県鹿島のヘッドランドでは、ヘッドランドの周りで立入禁止になってきている。過去の事例も含めて、九十九里浜では、どういう砂の付き方を我々地元が望んでいるのかという事を、整理していく必要がある。
- ・ HL2、3号の基部にある砂を中央に養浜したらいいと思う。
- ・ 漁港に貯まった砂を一宮に養浜したらいいと思う。それは、漁港にも一宮にもいいことである。

その他

- ・ 次回の会議時に、秋山委員、齋藤委員、近藤委員、中村委員から現状等についてご報告いただくこととする。